

▼フェロン注射用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 インターフェロン-β (U) interferon beta 【分類】 天然型インターフェロン-β 製剤

【単位】 ▼100万・▼300万IU/V

【常用量】 ■膠芽腫、髄芽腫、星細胞腫：100～600万IU/日を腫瘍内に局所投与、または点滴静注 ■皮膚悪性黒色腫：病巣あたり40～80万IUを腫瘍内に投与。1日総量は100～300万IU。 ■HBe抗原陽性でかつDNAポリメラーゼ陽性のB型慢性活動性肝炎のウイルス血症の改善：300万IU/回を初日は1回、以後6日間1日1～2回、2週目より1日1回静注または点滴静注 ■C型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善：300～600万IUを1日1回連日で静注 ■C型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善（HCVセログループ1の血中HCV-RNA量が高い場合を除く）：1日600万IUで開始、投与後6週間までは300万～600万IU/日を連日、以後300万IU/日を週3回静注または点滴静注

【用法】 ■静注：生食または5%ブドウ糖液1～20mLに溶解 ■点滴静注：生食または5%ブドウ糖液100～500mLに溶解

【透析患者への投与方法】 減量の必要はないが、短時間静注は避け、30～60分の点滴静注を推奨し、投与期間24～48週間（透析患者のC型ウイルス肝炎治療ガイドライン：透析会誌44:48-531,2011）【その他の報告】 減量の必要なし。C型慢性肝炎に対し600万IUを15分かけて点滴静注。最初の3週間は週6回、以後の7週間は週3回投与（Nakayama H, et al.: Clin Nephrology 56: 382-6, 2001）300～600万IU/日を30～60分かけての点滴静注により頭痛・精神症状が現れたという報告がある（立花直樹, 他: 透析会誌 33: 61-7, 2000）300万単位をHD中30min点滴で投与できる（荒岡利和, 他: 透析会誌 42: 393-402, 2009）

【保存期 CKD患者への投与方法】 減量の必要なし（Nakayama H, et al.: Clin Nephrology 56: 382-6, 2001）

【特徴】 HSV、HSV-1、アデノウイルス3型、4型、8型、19型に対して抗ウイルス作用を持つ

【主な副作用・毒性】 インフルエンザ様症状（発熱等）、抑うつ、自殺企画、意識障害、見当識障害、せん妄、ネフローゼ症候群、顆粒球減少、血小板減少、溶血性貧血、急性腎不全、網膜症、糖尿病、末梢神経障害など

【F】皮下注51%（13）筋注、皮下注では投与量の1/6しか血中に移行しない（J Interferon Cytokine Res 16: 759-764,1996）

【tmax】皮下注1～8hr（13）【Cmax】90×100万単位を5分間で単回静注後のCmaxは149IU/mL、同量を皮下注した時のCmaxは40IU/mL（13）

【代謝】腎および肝で代謝を受ける（長田正久, 他: 日本成人病学会会誌抄録集 p60, 2003）

【排泄】糸球体濾過、尿管再吸収、腎で異化されるが、肝への取り込みと異化が全身クリアランスを支配していると考えられている（13）尿中に活性体は排泄されない（1）【CL】13mL/min/kg（13）1670mL/min（J Interferon Cytokine Res 16: 759-64,1996）

【t1/2】α相:15～43min, β相:5.7～18.1hr [div]（1）α相:5min, β相:5hr（J Interferon Cytokine Res 16: 759-64,1996）β相:4.29hr（Pharm Res 10: 567-572,1993）4.3hr（13）【透析患者のt1/2】α相:6.9±2.8min（Nakayama H, et al.: Clin Nephrology 56: 382-6, 2001）非透析時2.4～2.6hr（長田正久, 他: 日本成人病学会会誌抄録集 p60, 2003）

【Vd】2.88L/kg（Chiang J, et al: Pharm Res 10: 567-72, 1993）【透析患者のVd】0.49±0.02L/kg（Nakayama H, et al: Clin Nephrology 56: 382-6, 2001）

【MW】20025

【透析性】資料なし（1）分子量、分布容積ともに大きいため透析では除去されにくいと思われるが、PMMA膜やPAN膜等の疎水性の高い膜では吸着機序によって透析膜に吸着される可能性がある（5）【透析時t1/2】1.9hr（長田正久, 他: 日本成人病学会会誌抄録集 p60, 2003）

【TDMのポイント】一般的にTDMは実施されていない

【相互作用】小柴胡湯との併用は禁忌。ワルファリンの作用を増強することがある。テオフィリンの血中濃度が上昇するおそれがある

【効果発現時間】12～24時間（抗ウイルス作用）（1）

【効果持続時間】72時間（抗ウイルス作用）（1）

【備考】間質性肺炎・自殺企画が現れることがある。自己免疫性肝炎の患者、小柴胡湯との併用、ウシ由来物質に過敏症のある患者、ワクチン等生物学的製剤に過敏症のある患者には禁忌

【更新日】20180418

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。